



図7 水道町バス停（くまもと安心移動ナビプロジェクト）

バス停の名称、定められた乗り口、バスの到着時刻を示してくれる



図8 通町筋バス停（くまもと安心移動ナビプロジェクト）



図9 テトリア熊本入り口（くまもと安心移動ナビプロジェクト）

建物に入ってから点字ブロックの敷設が複雑になる。経路に沿った説明の方が迷いにくいと思われる。



図10 信号のある横断歩道（くまもと安心移動ナビプロジェクト）

横断距離が60mある。その情報と信号が赤、青の情報が流れる。



図11 ホテル駐車場入り口（くまもと安心移動ナビプロジェクト）
段差がまったくないので視覚障害者には発見が難しい



図12 エスコートゾーン（くまもと安心移動ナビプロジェクト）
60cmの幅があるので外れにくい。ゾーン上にいる間、「ポーン、ポーン」という
断続音が聞こえる



図13 横断歩道上の軌道（くまもと安心移動ナビプロジェクト）

エスコートゾーンが途切れる。軌道上であること、線路の溝があることの情報
が流れる

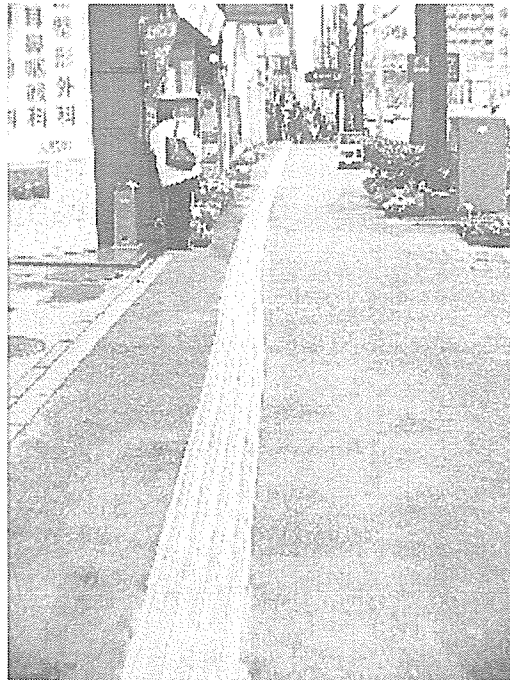


図14 分岐点がなく直線的に続く点字ブロック（くまもと安心移動ナビプロジェクト）

分岐点のない場所では特に案内は流れない。このような場所をひたすら伝って歩
くことはきわめて効率が悪い



図15 クランク状に曲げられた点字ブロック（くまもと安心移動ナビプロジェクト）
進路上にバス停があるためにクランク状に曲げられている。「分岐点です。右に曲がります」と指示が出て、1mほど歩くと「分岐点です。左に曲がります」と誘導される



図16 頻繁に現れる分岐点（くまもと安心移動ナビプロジェクト）
分岐点に達してから必ずアナウンスが流れる。目的地とは全く関係のない情報の場合、いちいち立ち止まることは煩わしく感じる。

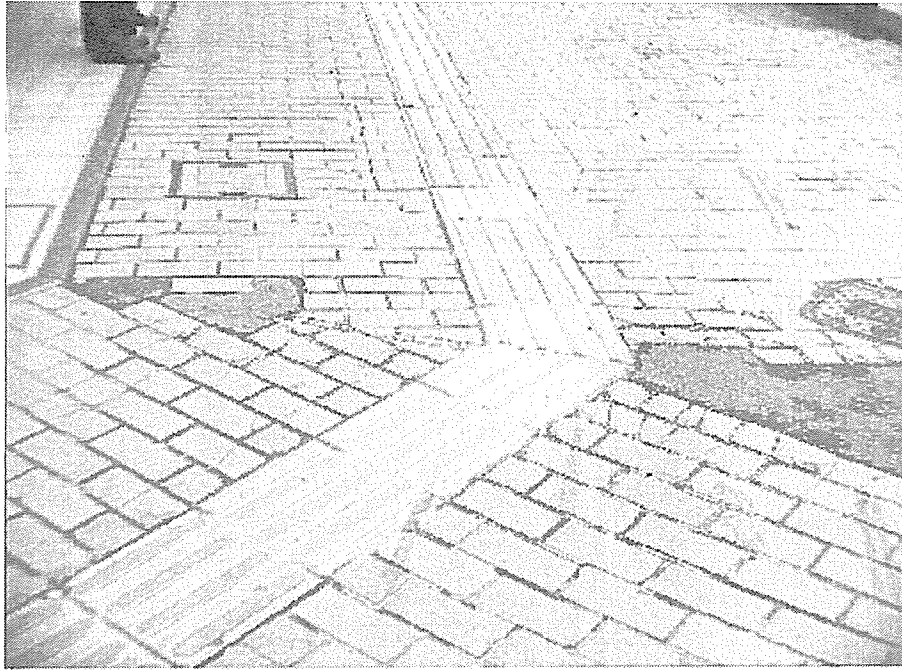


図17 点字ブロックの曲がり部分（くまもと安心移動ナビプロジェクト）

「少し曲がります」とだけアナウンスが流れる。どちらにどの程度曲がるという情報はない。点字ブロックを伝い歩きするテクニックで曲がった方が自然に曲がれる。情報はなくても支障はない。

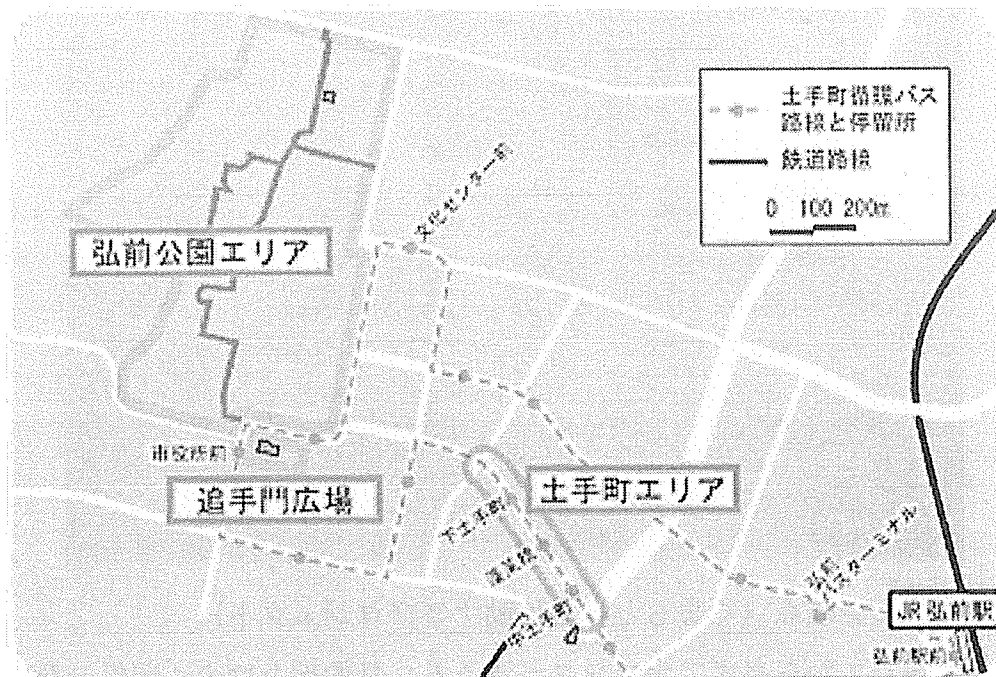
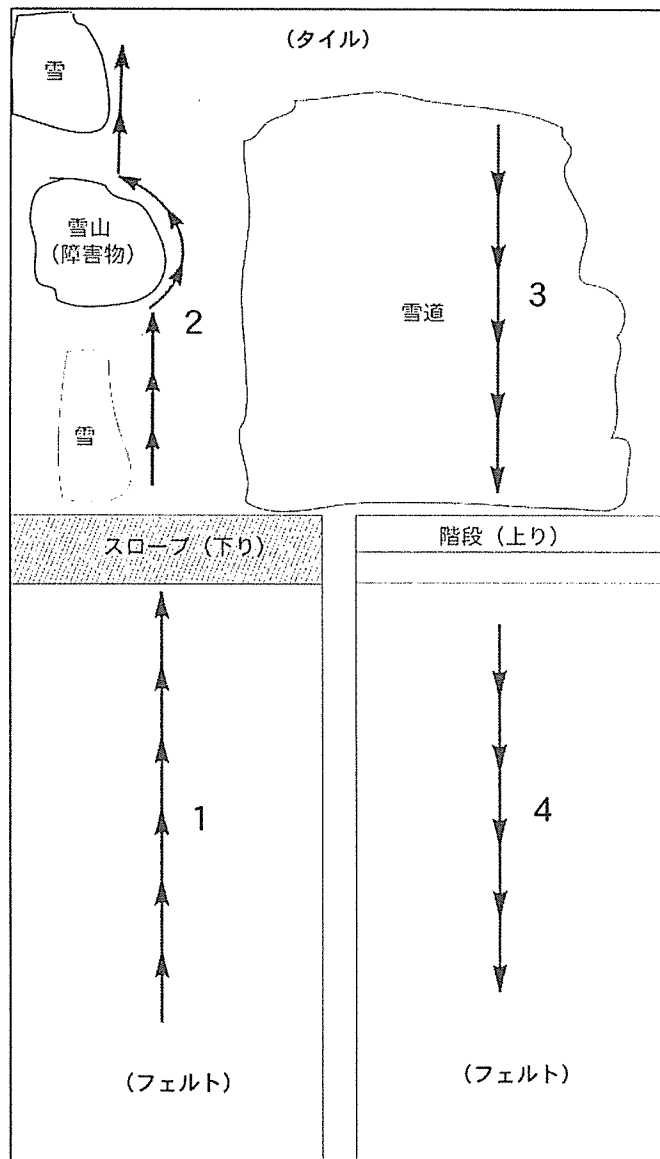


図18 実験エリア（ゆきナビあおもりプロジェクト in ひろさき）

※ 参考文献のURLから引用



→ 歩行進路及び方向
1～4は歩いた順序

図19 実験コース (ゆきなびあおもりプロジェクト in ひろさき)



図20 実験風景 (ゆきナビあおもりプロジェクト in ひろさき)

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
中山剛、外山滋、加藤誠志、岡谷和典、上田典之、野村隆幸、植松浩	地誌的障害のある認知障害者の屋内移動支援に関する研究－第2報－	信学技報, 福祉情報工学, WIT2006-104～132, 2007年3月発行	印刷中	印刷中	2007